

# 地域のふれあい 銭湯の湯気の中から

厳しい寒さもピークを迎える2月。それぞれに、体をあたためる対策に取り組んでいることが、聞こえてきます。

暖かい部屋で、あたたかいなべ物を家族でつつきながらのだんらんのひとときもいのですが、まずは、お風呂につかり、体の芯からあたたまるのが一番かもしれません。かつて、サケマス漁でにぎわった根室には多くの銭湯が点在していました。現在は、5つの銭湯が営業を続け、多くの市民でにぎわいをみせています。

銭湯の湯気の中から生まれる地域の触れ合いは、今も続いています。

昭和30年代。「こんにちは。」「おう、みんな元気か。」湯気で煙る浴場で、すれ違う大人にあいさつする小学生がいます。あれはこれほど、親もだれもが忙しいこの時代。近所の子どもが集まってはいざ銭湯へ。家の風呂を持つ家庭がまだ少ないころ、銭湯は子どもから大人まで、気軽に集まる地域の交流の場でした。大人は子どもたちに、銭湯でのマナーを教え、子どもたちはそこから学ぶことも多かったのです。日常の何気ない会

話も、銭湯では不思議と弾み、地域のコミュニケーションが図られていたことも確かです。

根室の冬の風は、どこよりも冷たく感じます。家の風呂であたたまっていくと、ふと、懐かしい銭湯での場面が浮かびます。年に何度かしか足を運ばなくなってしまうことが、そのころに得た地域の方々の交流は、今も大切なものとなっています。

根室内では、現在5つの銭湯がそれぞれの特徴を持つ

